

若手研究者育成のためのワークショップ
第7回細菌学若手コロッセウム
終了報告書

平成25年8月7日から9日の3日間にわたり、第7回細菌学若手コロッセウム（若手研究者育成のためのワークショップ）をフォレストヒルズガーデン・広島エアポートホテル（広島県三原市）にて開催し、無事に終了致しましたので、ご報告申し上げます。

空港から近いものの、広島市内から離れた三原市の山間部にあり、交通の便が悪い広島エアポートホテルでの開催、また真夏の暑い時期にも関わらず参加者は70名を超えました。発表演題は41題であり、地方都市での開催でありながら昨年度、東京で行われた第6回に迫る規模での開催となりました。

本会は、日本細菌学会における主要な分野である医学細菌学をメインに研究を行っている研究者のみならず、獣医学領域、植物領域や環境微生物を専門としている多数の若手研究者に参加をいただくことを目的に開催致しました。

1日目の特別講演として広島大学大学院 理学研究科の小林亮教授により「粘菌の行動知に学ぶ」と題した講演を行っていただきました。粘菌に迷路を解かせて最短経路を求めるという非常に独創的な手法を利用することで、鉄道網、道路網、インターネットなど人間が必要とするネットワークを設計する際の理論として活用するという着眼点に、細菌学の新たな可能性を見出した若手研究者も多かったと思われます。また、小林先生には実物の粘菌を会場に持ってきていただき、小林先生の研究室と学会場が近いという、地の利を最大限に生かしたプレゼンテーションをしていただきました。また、2日目には、大阪大学大学院生命機能研究科の難波啓一教授に「クライオ電子顕微鏡による生体超分子ナノマシンの機能構造の解明に向けて」と題して、細菌が移動の際にモーターのように使って移動する鞭毛について、分子モーターとして構造解析した結果を示していただきました。このような研究手法が今後、筋収縮に関わるアクチン・ミオシン複合体などの解析にも役立つことなどから、細菌の研究からさらに幅広い研究へ広がる可能性を感じた若手研究者も多く居たと思われます。

また、1日目、2日目、3日目とも、それぞれランチョンセミナーとして株式会社丸菱バイオエンジ、株式会社テクノスルガ・ラボ、パソジェニカジャパン株式会社に昼食時を利用して、最新鋭の機器、実験手法の紹介をしていただき

ました。

一般演題については、若手の研究者の方に活発に討論してもらうことを目的として長めの討論時間を盛り込んだために、スケジュールがややタイトになってしまいました。また、1日目、2日目ともに意見交換会の終了時刻が午前0時になってしまいましたが、それにも関わらず活発な議論が展開され、活気のある会となりました。休憩時間においても参加者間で非常に活発な交流が行われ、参加した全ての若手研究者にとって非常に有意義な3日間となったと思います。しかし、学会終了後のアンケートでは、有意義であったという意見が多かった反面、スケジュールにもう少しゆとりを持たせられないかとの意見もあり、さらに改善すべき点があると考えています。

本ワークショップは、日本細菌学会「平成25年度若手研究者育成のためのワークショップ」に採択され、本学会から全面的な支援を受けて開催されたものです。本ワークショップへのご支援について、日本細菌学会理事会及び会員の皆様に改めて感謝を申し上げます。若手研究者の活性化や教育のためには、このような形式でのワークショップを継続して行うことは非常に重要なことだと考えております。引き続き、本ワークショップの継続的な開催へのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成25年8月15日

若手研究者育成のためのワークショップ

第7回細菌学若手コロッセウム

世話人	菅井基行（広島大学）
ワーキンググループ	安倍裕順（大阪大学微生物病研究所）
	大西なおみ（北海道大学）
	鹿山鎮男（広島大学）
	田端厚之（徳島大学）
	中山秀喜（京都産業大学）
	丸山史人（東京医科歯科大学）
	三室仁美（東京大学医科学研究所）